本を選ぶ

高校図書館版

NO. 8　1989年(平成1年)11月10日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

本社 〒162 東京都新宿区下宮比町2-28 飯田橋ハイタウン517 TEL 03-235-6168

ぶっく・えんど

20年前20年後

月一回、３才の子を持つお母さんからどんな本を子どもと楽しんだか聞かせてもらっている。図書館から1.6～2.2㎞の地区。その日は段ボール一箱半の本を貸し出し、本を紹介する。貸出文庫も利用して高学年向きの本も読む。

４月当初、子どもに本を読んであげる育児をしていない人も多い。お母さんが紹介してくれる本も、テレビ番組を焼き直した類が多いし、図書館を利用したことの無い人が半数以上である。

一年経ってメンバーが入れ替わる頃には、様変りしている。就寝前の読み聞かせを母子で楽しんでいる様子がなんとも羨ましく、ちょっと嫉ましい程。紹介する本も違っている。古典と言われているものが、しっかり子どもの心を掴んでいるのを知るとホットする。新刊への食い付き方も、書評の通りだったり、意外や意外だったり、とにかく面白い。

読んでいるうちに、自分もこの本を学校の図書室で借りて読んだとか、弟が買ってもらった本を読んであげたことを思い出したと言って『ヘンリーくんシリーズ』『おさるのジョウジ』『モチモチの木』『おさるとぼうしうり』『石切り山の人びと』等々が出てくると、ここ20年間の子どもの本の歴史が輝いて見えて来る。

私だけでは見付けられなかった新刊もたくさん教えてもらった。『ウォーリーをさがせ！』（フレーベル館）も、「子どもにせがまれて買い、家族揃って楽しんだ」との紹介を聞いて、私も買った。そのグループは勿論、文庫でも大ヒットとなり、街の大型本屋にも平積みされていた。２作目の『ウォーリーをおえ！』の次は何時出るのでしょうと尋ねられたのは数カ月前の事だったが、今書店には次の新刊が積み上げてあり、文字通りにウォーリーをさがせになっている。朝日ジャーナル（'89.10.27号）の小さなコラムに『ウォーリーをさがせ！』が、小田急沿線の女子高校生や大学生に受けていると書いてある。彼等はゲームブックとして楽しみ、プレゼント用に買うそうだ。絵本は子どもから大人までの共通文化財だと思っているが、私の守備範囲の子ども達が20才になると、30才になった高校生と「ウォーリー体験」を懐かしく思い出す日が来るのだろうか。

「図書館を利用して！」と喚く甲斐あって夏休み前にはほぼ全員図書館の利用者になる。休日に家族揃って出かけ、父親が子どもの本に興味を持ち出したなんて話は、いかにも若い世代を感じさせて頼もしい。３月には修了の集いが開かれる。

数年、こういう若い親子と一緒に本を読んで、子どもが整った読書環境で育つには、親が本好きかどうかは決定的条件ではないと思う。親は子どもの体を丈夫に、心は逞しくしなやかにと願っている。本の借りられる場所が近くにあれば、必ず子どもと一緒にでかけ、子どもが本を喜ぶから、親も本に興味をもち、好きになっていく。供給のあるところ需要が生れるが、供給は建物や本でなく、それを生かす人あってこそであり、人のいない施設は廃墟同然だが、そういう例なら枚挙にいとまがないのは、皆様ご存知の通りである。

（近藤　幸子：浦和市在住）

当面の課題

―三つの決議をうけとめる―

栗原　進

★三つの決議

この夏、相ついで三つの決議が全国的な規模の集会であげられた。ひとつは７月11日、第36回図書館問題研究会の決議の一つとして、又７月30日には、第７回親子読書地域文庫全国交流集会で、そして８月６日の学校図書館問題研究会第５回大会でのアピールとして。それらは、わが国のすべての学校図書館に専門的職員（司書）を配置するよう求めたものであった。学校現場からは勿論、親からも学校以外の図書館関係者からも、期せずして同時に同じ声があがったということに注目したい。

現在、全国小・中学校の図書館への専門的職員の配置率は10%台であるという。そうした中では、次代を荷う子どもたちに豊かな本との出会いを保障することは極めて困難なことだ。「学校の保健室には養護の先生がおられるように、本の紹介や読書相談にのってくださる専任の司書の先生が学校図書館にもいてくださったら、子どもたちはもっともっと本に親しみやすくなることは、これまでの先進的な学校図書館の例からも明らかです。」（親子読書交流集会アピール）という親の願いは、学校再生への熱い期待に満ちている。更に、図書館を生涯学習の基本に据えたとき、学校図書館活動はその基礎的役割を荷うものであり、公共図書館が学校図書館との連携を進める努力をするにあたって、その受け皿となるべき「人」が学校側にいないならば、その後の発展は望み得ないとする図書館問題研究会の主張も当然のこと。そこで、前記の様な決議となって、広く国民に呼びかけられたものと思われる。

高校での専門的職員の配置率は全国で80%前後と割合いに高い達成率を示してはいるが、その基礎たるべき小・中学校で前記の如き状況であってはどうにもならない。しかも、小・中学校を含めて専門的職員の身分保障が不安定であることを考えると、私たちは1953年（昭和28年）に成立、翌年４月に施行されている「学校図書館法」（以下学図法）の改正を念頭に置いた上で活動を組み立てていかねばならない。

★「学校図書館法」とかかわって

「学校図書館法」が国法として成立する５年前の1948年、学校図書館は新しい教育改革を達成するための「最も重要なものの一つ」とする『学校図書館の手引き』が文部省によって発行され、新教育における学校図書館の意義と役割を強調した。それは、教科書中心の教育から、児童・生徒中心の教育に向わねばならないことを示唆している。子どもたちの個性と能力は、読書によって彼らが自己を発見し、自己を創造し、自己を実現していくことによって開発されていくという道すじを示すものとも言えよう。更に、「自ら学ぶ」という、子どもたちを主体とした教育の再生を企図するものとして注目されたのだった。しかし、残念ながら、その後ほぼ10年毎の指導要領の改悪のくり返しによって、テストにより差別と選別を助長する受験競争を激化させ、校内暴力や登校拒否児を増大させるという結果を引き起してしまった。

憲法・教育基本法の精神に則り制定された「図書館法」（1950年）をベースとして施行された学図法は「学校図書館が学校教育において欠くことのできない基本的な設備」（第一条）と規定しているにもかかわらず、政府・文部省の無関心なまま、教育課程の中にきちんと位置づけられなかった。このことは、子どもたちの主体的な学習を尊重し、その学習権を保障する機関として、学校図書館を整備し、発展させることが出来なかった最大要因の一つにあげられるだろう。

基本的には民主的な内容を持つこの学図法は、しかしながら、職員と経費に関して大きな不備を残した。そのための改正運動は、法に明記されていない「学校司書」の法制化といわゆる「附則二項」の撤廃というかたちで早くから進められてきた。これからも進めていかねばならない重要な課題にちがいない。ところが、その運動も二つの潮流に意見が分かれ、対立が表面化してきている。

その内容にまでふれることは本意でないので、ここで云々することは避けるが、一度は日教組・日高教と全国学校図書館協議会（ＳＬＡ）との間で合意が成立したにもかかわらず、今またその対立が激化していることは残念でならない。

むしろ、労働運動の右傾化に拍車がかけられている現在、私たち自身が将来展望を見失い、焦りを助長することになるなら、せっかくの運動に水を差すばかりでなく、学校図書館再生の方向も見失われてしまうのではなかろうか。私たちに今できることは何なのか、何をやらねばならぬのかを考えるとき、私は先の三つの決議を当面する課題としてとらえ、論議を深めていかねばならないものと思う。それらは、学校図書館のみの問題ではなく、全国民的な課題として、公共図書館との連携を抜きにしては考えられないことだから。

★公共図書館との連携の中で

諸外国に比べれば、その立ち遅れは否めないものの、昨今我が国の公共図書館の発展はめざましい。行政の施策の一つとして、図書館建設を目玉に据える自治体の首長もふえてきた。図書館の時代の倒来と言っても過言ではあるまい。それは、全国に働く公共図書館の専門的職員の地道な努力の結果でもある。

コンピュータの導入に伴い複数の図書館を持つ自治体もふえ、システムとしての図書館の体系も考えられるようになった。同時に、自治体間や学校等とのネットワークも視座に入れたサービスのあり方も模索され、一部実践に移されつつある。しかし、それらはまだ緒についたばかりで、一般の住民や教職員の目にはよく見えているとは言えない。私は数年前から地域の図書館づくり運動に加わってきて、その中でいかに多くの真摯な図書館員が住民へのサービスの向上に日々身を粉にしてかかわっているかを知った。しかも、図書館の自由を守り、住民の学ぶ権利を大切にしながら。そうした図書館界では、いま学校図書館が大きな関心の的となってきていることは当然のことだろう。

公共図書館と学校図書館との連携について、埼玉県教育委員会と県図書館協会が主催して、８月には全県規模での研修交流会も持たれて盛会であった。図書館問題研究会埼玉支部でも同じ月に交流会を持ち、学図法改正問題に強い関心を示している。その席上、読書離れの著しい子どもたちを公共図書館や学校図書館はどう救ってくれるのかと一人の母親から問題をつきつけられて、私たちはそれに答えるための明解なことばを持たなかった。

私たちは今、学図法改正問題や教科学習とのかかわりをどうするか、司書と係教諭との軋轢をどう乗り越えていくかなど、内外に苦悩する問題を多くかかえている。そうした状況を打開し、前記の母親の問いに答えていくためにも、狭いカラに閉じ籠らず、手を差しのべてくれる公共図書館の援助を受けつつ、相互協力を深め、連帯の絆を強めていかねばならない。

★おわりに

図書館の三要素は資料と人と施設であるという。そのどれをとってみても、学校図書館は公共図書館に遠く及ばない。教育の重要な機能としての学校図書館が、いまなお十分に認識されていないことの証左でもあるが、学習指導要領ではいまだに無視されているとはいえ、子どもを主体とした教育を考えるとき、その任務はきわめて大きいといわねばならない。ならばどうしたらよいのか。学校図書館を蘇えらせる手だてはないのだろうか。

図書館の三要素の中で「人」の占める率は75%といわれる。だから、先づそこに「人」が居なければ始まらない。だったら、そこから出発するより他に手だてはあるまい。そこで、再度先の三つの決議に立ち戻って、その意味を考えてみたい。読書の体験や自学の習慣は幼児からの蓄積によって初めて成り立つ。その蓄積の基礎づくりこそ、今一番大切なことだということが、親の声、社会の声となってあげられているのではないか。

学図法は改正されねばならぬ。そのための運動に、私たちは力を尽さねばならぬ。同時に、今できることに力をそゝぐことによって、実質をとっていくことは、又法改正への近道にもなるのではないか。現に、そうした先進地区を私たちは知っている。それらの勝れた実践に学びつつ、各地から陸続と声を上げていくこと、その一つを私は自分の住む地域から始めていきたい。

（くりはら すすむ：埼玉県立川越高等学校教諭）

まんがについて考える

宮崎伸子

アンケート調査をしてみました

学校図書館にまんがを受け入れるべきかどうかの論議がされだしたのは4、5年位前からだろうか。滋賀県の高校図書館でも、まんがに対してどう取り扱ったら良いか。司書としてどう考えていけば良いかなど、最近、まんがに対する議論が少しずつなされてきている。

全国的にまんが論議が活発化し、研究が進められている中で、滋賀県高校教育研究会学校図書館部会の湖南A地区司書部会が研究テーマとして、昨年11月に県の学校図書館部会に加盟している高校を対象に、まんがに関するアンケート調査を行った。私たちの目的は、多様化した情報化社会、視覚化した児童、生徒を対象とした現在の教育状況の中にあって高校図書館がどの程度まんがを取り入れ、どのように教育に役立てているかを調査し、図書館職員がいかに対応しているかを知るために実施した。配布した学校は県内60校、回答校は57校、95%の回収率だった。主なアンケート結果は次の通りである。

「まんがを図書館に入れています」が、78.9%もあり、部会に出席した司書全員が驚いた。まんがを受け入れている学校が多いだろうと見当をつけていたが、想像を上回るものだった。俗にいう学習まんがからストーリーまんが、そしてコミックまんがまで幅広く受け入れられている。それだけ生徒からの要望が強いのであろうか。反対に「入れていない」学校が21.1%で「入れない理由」として「図書館の方針として入れない」が75%、「予算的に入れられない」が33.3%と回答があった。また「入れている」という学校に対して「図書館にまんがを入れた理由は何ですか」の問いには「最近の傾向をとり入れて」が53.3%あり、半数の学校図書館が、生徒のまんが指向を無視できない状況にあると考えられた。

その他の理由には「教科からの希望（3校）、内容的に優れている（2校）、同じ滋賀県彦根地区研究委員会が作成したブックリスト「こんなときどんな本を読んだらよいか」に推せんされているから（2校）といった意見もあった。

ふえた図書館利用とマイナス面の指摘

このほか貸出制限の有無、まんが選定基準の有無、まんがを入れる前と入れてからの図書館の利用状況はどうか。まんがから一般図書を利用させるのに工夫はどうしているか。など17項目にわたり、かなりつっこんだ質問のアンケートをとった。

なかでも、興味深いのは、まんがを入れる前と入れてからの図書館利用の回答である。「図書館に足が向きやすくなった」「昼休みの図書館利用が増えた」「図書館に入ってくる生徒が多くなった」というように、今まで全く、あるいはあまり図書館に関心を示さなかった生徒が足を向けだした。これは素直に喜んでよいと思うし、図書館を預かる司書としては救われる思いだ。

「読みたいまんがが入ったのだからいくらか静かになった」「静かになった生徒につられて勉強をしたり、本を読んだりする生徒が増えた」「今までみられなかった顔が増えたし、まんががきっかけで一般図書を借りる生徒が増えた」など学校図書館本来の姿に近づいた明るい意見もあった。

しかし、これは少数校での反応だと思う。

反対に、これまでのように良い意見ばかりではない。「まんが目的の入館者が増えた」「まんが本にとどまり、他の図書への好奇心や興味はみられない」「マナーが低下した」など、まんが受け入れに二の足を踏むような意見もあった。

これらの回収したアンケート調査をさらに押し進めるため、湖南A地区9校に、教育現場である図書館に、まんがを受け入れ、利用させることを教師側はどのように考えているか、アンケートを配布した。

「教科にどのように利用できるか」「図書館にまんがを置くことにどう思うか」「まんがから読書の習慣をつけることができると思うか」など、

19項目を挙げて、各学校に調査依頼をしたものの、教師のまんがに対する考えにバラツキがあり回収できていない。

まず知ることから

私たちは、自分たちの地区で、今後、調査をどのように発展させていくべきか考えた。

これまでのように、まんがを無視して通れないし、良い内容のものは積極的に評価していかなければならないと思うが、司書の中でも比較的若い人たちは、まんがに抵抗はないが、40～50代の司書は拒否反応をおこしている。私たちは、まんがを学校図書館の資料とするか、するなら、選定基準や教師への働きかけをどうするか。まんがの分類（オリジナル、ストーリーまんが、学習まんが、古典もののまんが等含む）はなど、多くの意見を出し合って討議した。しかし、話し合えば合うほど、なかなか糸口がつかめない。

「学校司書」はどれぐらいまんがを知っているだろうか。これまで、まんがは図書館に結びつかないし、まして教育図書として学校図書館では、全く受けつけない分野だったと思う。今までまんがなんて〝おやつ〟的なものであって、なんの役にもたたないとして扱われてきたのではないだろうか。

今、学校図書館にまんがはどうかと議論する前に「学校司書」がまんがという表現読本を知っているか。まんがを読み、まんがとはどんなものか改めて知った上で考えてみようということになった。取りあえず、まんが本を区別なく偏見なく読もうということから始まり、今、一生懸命まんが本を読みあさっている。

読んだまんがは、あらすじ、読後感や絵に対する評価など書き込んで集まり、意見交換をしている。「文庫本を読む方が楽だ」「テンポが早くてしんどい」「登場人物の顔が同じようで、読むにつれてわからなくなる」「まんがによっては絵が合わない」「歴史的背景、ストーリーの意図がしっかりしている」など、率直な意見が出た。始めは、まんがを読むことに苦痛を感じていた司書も少しずつ楽しみながら読むことができるようになった。

まだまだ、私たちの研究は始まったばかりだが、「学校司書」がまんがに対して、正当な評価ができる眼を持たなければ、教師への働きかけも自信をもってできないのではないだろうか。まんがについて好意的な理解が必要になってきた。

日常の活動について

３年前、本校の図書館に勤めだしてから、基本図書の充実に力を入れ、生徒に親しまれ、利用しやすく、入りやすい図書館づくりを目指してきた。職員の図書委員会を設け、教科希望の図書購入をしたり、生徒希望の図書をできるだけ多く購入してきた。

自分の読みたい本が、図書館で借りられる喜びは、借りる側にとって本当に読む意欲を駆り立ててくれるものである。徐々にではあるが貸出冊数も伸びた。

文化祭には、古本バザーを行い、収益金を生徒希望図書に加え、新しい図書を購入し生徒に還元してきた。この３年間はどの学校図書館でもやっていることを、できるところから定着するよう活動してきた。

まんがコーナーを新設してみました

４年目の今年度は、司書部の地区研究会でまんがについて研究していることもあり、本校教職員にアンケート調査をしてみた。

「授業に利用できるまんががあれば利用させたいと思うか」の問いに、「利用する」が回答16名中15名あった。そして、「学校図書館にまんがを置くことについてどう思う」が「良いと思う」「適当なものならばよいと思う」を合せて14名あった。これらから、少々強引かと思ったが、試験的にまんがを入れてみた。これまでは、『バイバイスモーキング』など数冊あるだけだった。

先生方の協力を得て、『アドルフに告ぐ』『あさきゆめみし』『火の鳥』『はだしのゲン』の４種類34冊を入れた。自由に貸出が出来るように、文庫本の隣りにまんがコーナーを設けた。

まんがを入れて数カ月だが、まんがを入れる前に比べて、入館者数も貸出冊数も大幅に伸びた。まんがを入れる前は１カ月60～70冊程度だったが、まんがを入れてからは１カ月250冊余りとなった。

この数字は本校にとってかつてない数字なのである。昼休み・放課後の図書委員による貸出・返却の仕事は活気に満ちてきた。これまで見られなかった生徒の顔も少しずつ増えてきた。

きちんと評価をしたい

まんがを入れたことで、図書館のイメージがフランクになった。生徒にとっても堅い図書館から身近で、入りやすい施設になったというべきか。

貸出カードを見ると、250冊余りの内、まんがを分類している700は80冊余りだった。芸術関係の本も入っているので、全部がまんがとは考えられないが、約3割がまんがを借りていったことになり、まんがだけが目的で来ている生徒ばかりではないように思えた。このまま、貸出が伸び、図書館利用が生徒の中に根づく「キッカケ」の1つになればよいと思っている。

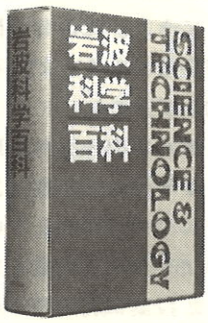
本校に入れたまんがは、比較的安心できるストーリーまんがだが、コミックまんがの中にも、これは生徒が読んでも〝安心〟という、内容のしっかりしたものもあり、やみくもにまんがを否定していたのでは、おのずと学校図書館が時代に取り残されていくのではないだろうか。いずれは生徒に、図書館に入れて良いと思うまんがの選定をさせてみたらどうかと考えているぐらいだ。

(みやざき のびこ:滋賀県守山市立守山女子高等学校)

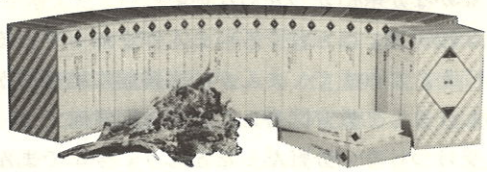
★

DMかたろぐ

●学校図書館必備の百科!
岩波科学百科
SCIENCE & TECHNOLOGY
岩波書店編集部 編
B5判上製函入・1350頁
2色刷・図,写真多数
定価9800円
(本体9515円)
岩波書店



河出世界文学全集
ステラ版 stella
joie de lire, joie de vivre
読む喜び、生きる喜び。
全25巻



ダンテから現代まで——選びぬかれた永遠の名作!
絶賛発売中!
セット定価103,000円
(分売はいたしません。税込価格)
河出書房新社
東京都渋谷区千駄ヶ谷2−32
TEL03-404-1201 FAX03-404-6386

"絶滅動物シリーズ"
3点セット

地球絶滅動物記
監修・今泉吉典 著・今泉忠明
256頁(カラー192頁)

地球絶滅恐竜記
監修・長谷川善和 著・今泉忠明
256頁(カラー192頁)

地球絶滅昆虫記
監修・黒澤良彦 著・猪又敏男
240頁(カラー192頁)

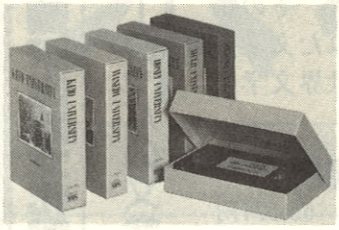


セット本体価格26,400円
本体価格(各) 8,800円
地球の生物の進化と絶滅の様子が把握できる話題の大画録集——!!
竹書房 〒102 東京都千代田区飯田橋2-7-3 ☎03-264-1576

THE AGES OF GAIA
地球生命圏の進化
ガイアの時代
地球の病気は誰が癒すのか。
40億年のガイアの進化・成長史を豊富な実例とエピソードによって鮮やかに検証。
さらにガイアの病の真の原因を究明し、人間の役割を問う。
●四六判上製・392頁
●2400円(本体2330円)
J.ラヴロック 著
スクミ・プレム・プラブッダ 訳
A Biography of Our Living Earth By James Lovelock
株式会社 工作舎
東京都渋谷区松涛2-21-3 〒150
Phone:03-465-5251 Fax:03-465-5254

大学環境ビデオシリーズ

VHS/COLOR/20MIN



慶應義塾大学
同志社大学
法政大学
明治大学
早稲田大学

税込￥2,900
(税抜￥2,816)

キャンパスは青春の一つの舞台です。
OBの方々には想い出を
受験されようとする人には憧がれを馳せるキャンパス。
文字メディアにない視覚情報を
環境ビデオ仕立の音楽と映像でお届けします。

発行所/京都書院
〒604 京都市中京区堀川通三条上ル TEL 075-841-9123

自ら学ぶ力を育てる英語授業

自己教育力の養成をめざして

松畑熙一著 A5判 184頁 定価1860円(税込)
●「教える学力」から「育てる学力」への転換をめざす

生成文法の基礎

中村 捷
金子義明 共著
菊地 朗

原理とパラミターのアプローチ

A5判 272頁 定価2880円(税込)
●チョムスキーのGB理論をわかりやすく解説

英語辞書の比較と分析

第3集
第4集

岩崎研究会編 各巻 A5判 定価3000円(税込)
辞典編纂に大きな業績をあげている岩崎研究会が欧米の辞典を詳細に分析

研究社 〒102 東京都千代田区富士見2-11-3 ☎03(269)4333

地と図—地理の風景

定価3914円

物理学大百科

11月下旬予定
定価10094円

植物バイオテクノロジー事典

日本地質図大系(全8巻)

4 関東地方(11月下旬刊)
定価63860円

8 北海道地方(90・5月刊)

朝倉書店 東京都新宿区新小川町6-29 〒162 ☎03—260—0141

フィールドフォトテクニック



〔全4巻〕
B6判・平均136頁



①水中写真マニュアル 小林安雅著 1500円(税抜)
②植物写真マニュアル 木原 浩著 1545円(税込)
③昆虫写真マニュアル 海野和男著 1545円(税込)
④野鳥写真マニュアル 叶内拓哉著 1545円(税込)

東海大学出版会 東京都新宿区新宿3-27-4東海ビル ☎(03)356-1541

東京書籍

仏教名言辞典

奈良康明 編著/A5判928頁
定価9800円(本体9515円)

仏教の心と智慧を凝縮した珠玉の名言一千項目を集大成!
仏教の名言と名句を、インド・中国・日本と伝承されてきた仏典二三〇余編の中から、一〇編九八章に分類し、平易に読みやすくした名言辞典。
八年の歳月をかけた偉業!!
ここに賢治の言語宇宙が拓かれる。

宮澤賢治語彙辞典

原 子朗 編著/四六判1104頁
定価9800円(本体9515円)

全作品から、宗教、天文、地学等多岐にわたる語彙約三六〇〇項目を抽出して解説。賢治の言語宇宙を解く希有の辞典。

東京都文京区本駒込6-14-9 〒113 ☎03-942-4111

ヤングアダルト図書総目録



ヤングアダルトとは、
ティーンエイジャーの
年頃をさす
「若い大人」という
意味です。
ヤングアダルトを対象
とした
あらゆる分野の本を
収録した
'89年版図書目録!!
頒価300円

ヤングアダルト図書目録刊行会
〒162 東京都新宿区東五軒町6-24東販ビル内 電話(03)266-9587(代表)

ウィーン・オペラ

栄光と伝統の350年／ゼーボウム他／岩下真好監訳
貴重な図版写真を交えながら、最高の権威者たちの解説で究明したウィーン・オペラの歴史。**12,000円**

クリムト画集「風景」

クリムトの風景は、人間の魂のもっとも奥深い働きと同じ内面の品格をたたえている。本書は先に出版した、クリムト画集「女」の姉妹編である。**12,000円**

＊価格は消費税別です。また詳しくは同封の内容見本をご覧ください。

リブロポート
〒171 東京都豊島区南池袋2-23-2(電)03-983-6191

日本翻訳出版文化賞に輝く！

東ヨーロッパの文学（第一期）

20年と平和が続かず、絶えず民族の運命と闘ってきた東欧の国々。その歴史の中で生まれた文学作品を精選！　世界文学の空白を埋める。

■全34冊　■各平均1,900円
■全冊セット価　65,571円

四六判上製　カバー装
各巻平均　400ページ

《日本翻訳出版文化賞受賞》

株式会社 **恒文社**
〒101東京都千代田区三崎町3-10-10☎03(238)0181

ふたりの世界〔五部作〕全巻完結！

ジョアン・リンガード　横山貞子訳
北アイルランド、ベルファストの街。プロテスタントか、カトリックか？　住民たちはまっぷたつに分かれ、いがみあっている。対立の中の愛を選んだ10代の夫婦のゆくてには——。熱い感動を呼ぶケヴィンとセイディーの旅のストーリー。

Ⅰ　**ベルファストの発端**　1650円
Ⅱ　**バリケードの恋愛**　1860円
Ⅲ　**ロンドンの生活**　1860円
Ⅳ　**チェシャーの農園**　1860円
Ⅴ　**ウェールズの家族**　1860円

＊価格は消費税込みです。

晶文社 東京都千代田区外神田2-1-12 電話(255)4501



よみやすい古典

ギリシア神話　ムニエ著　原・松田訳　仏で定評の翻訳版　2000円(税別)
聖書の物語　安部薫著　名場面を集めた新しい構成の本　2000円(税別)
古事記の物語　斎藤正二訳　古事記をていねいに現代語訳　2800円(税込)

世界の歴史や伝説

世界を変えた植物　ドッジ著　白幡節子訳　有用植物発見物語　2800円(税別)
花の神話と伝説　スキナー著　垂水・福屋訳　花の話200篇　2400円(税別)
狼と西洋文明　ラガッシュ著　高橋正男訳　伝説と歴史　2880円(税込)

八坂書房　101　東京都千代田区猿楽町1-5-3　Tel.03-293-7975　Fax.03-293-7977

既刊350点突破！—辞典づくり40余年—
定評ある東京堂の辞典シリーズ

●創業100周年記念出版

日本古墳大辞典

大塚・小林・熊野編　古墳研究の第一人者により、最近発掘された藤ノ木古墳を含め四千基の古墳を網羅した。　好評発売中　**特価13800円**(12月末迄税込)

類語活用辞典　磯貝英夫・室山敏昭編

最新刊　好評発売中　四六判　556頁　**2900円**(税込)

一遍辞典

遊行聖として知られる一遍の峻烈な生涯の軌跡を探究

今井雅晴編　四六判　344頁　**3600円**(税込)

東京堂出版　〒101 東京都千代田区神田錦町3-7　☎03(233)3741　内容見本進呈

小社秘蔵写真を駆使して追う、壮大なスポーツ・ロマン！

【永久保存用特装版】

激動の昭和スポーツ史

収録年■昭和前史～第2次世界大戦～昭和64年／平成元年　全18巻

他社ではなしえない
昭和スポーツクロニクル!!

待望の刊行、好評発売中！

A4判上製／セット定価36,000円

BASEBALL MAGAZINE SHA
株式会社 **ベースボール・マガジン社**
〒101東京都千代田区三崎町3-10-10　☎03(238)0181